

JR東労組は「業務部速報 No.66」で、3月5日に会社との間で「申15号=2018年度賃金引き上げに関する申し入れ(2月27日付)」に基づく第1回団体交渉を開催し‘主旨説明’を行ったことを報じている。この間、同労組は‘取らぬ狸の皮算用’とでも言うべきか、ベアを獲得したわけでもない中で「ベア実施の際の配分方式」ばかりクローズアップし、スト権行使をめぐる内外をかき乱してきたわけだが、JR東労組「業務部速報 No.66」では一言も触れていない。賃上げ要求について会社へ「満額回答」を強く要求しているようだが、大切な争点については思考停止状態か、戦術転換したのか?「格差ベア」の回答引き出しへ、何事もなかったように突き進むのか。

**複数の地本が反乱!?反本部で結束、革マル色隠しに走るか?**

**東北3地本が「新たな体制」「臨時大会開催」を要求!**

**～体制は変わっても、本質は変わりませんよね～**

3月1日、JR東労組の東北3地本(仙台地本・盛岡地本・秋田地本)は、3地本執行委員長の連名で、「JR東労組東北三地本の全組合員のみなさんへ」なる文書を発信した。同文書は、「(前略)私たちは3月1日、東北三地本の委員長、書記長で集まり、この間のたたかいを捉え返し、今後進むべき方向について熟慮しました。」と、極めて意味深な文から始まっている。

**2月28日の中央本部「第4回戦術委員長会議」で地本が反乱?でも打開できず...**

また同文書では、「2月28日に開催されたJR東労組中央本部『第4回戦術委員長会議』において、私たち東北三地本は、中央本部に対して組織存続の危機と、現在も苦しんでいる組合員の現実を訴えてきました。しかし、残念ながらそれを打開させるための認識の一致を見出せなかったことから、新たな体制の下で、信頼と信用の回復を図るために臨時大会の開催を要請しました。」との記載がある。もはやJR東労組は、足並みが揃わぬ地方本部を統率できず、組織的な意思統一もないまま走っているようだ。同会議では、スト準備指令～支離滅裂なスト指令解除、そして3週間程度のに10,000人を超えたと言われる大量組織脱退を踏まえ、‘失策’を認めない‘肯定派’と、会社の徹底姿勢や組織の瓦解に恐怖する‘戦術転換派’が、組合員には公開できないような見苦しい激論を交わしたのではないか。現執行部の責任を問う声も出されたのであろうと推測される。それもそのはず、10,000人と言え、すでに組織人員の2割を超える数であり、もはや財政上大きな影響を及ぼすことは必至であろうからだ。革命組織の維持・温存のためには何でもすると言われる極左過激派集団「革マル派」が相当浸透しているJR東労組にとって、これほどの痛手はなかろう。

革マル派創設時の副議長である松寄明元JR東労組会長(故人)の教えを、誰が‘正しく’継承・実践できているか、その解釈を巡る醜い内部抗争が起きていると推測する。体制が変わっても、本質は変わらない。次はお得意の、都合が悪くなったら隠れる‘たこ壺’戦術と、‘潜り込み’戦術へ転換するか?!